

これからの政治と選挙のありかた

西諸県支会 代表 川平 直人

私たちの生活は、今般の新型コロナウイルス感染症により、多大なる影響を受けています。令和元年12月に中国でこの感染症が確認されてから、これまでの間に全国への緊急事態宣言の発令をはじめ、蔓延防止措置等、政府や都道府県主導で多くの対策がなされてきました。私たちの生活も普段どおりとはいかず、「新しい生活様式」の実践、各種イベント・行事の中止や延期、リモートでの会議等、これまでに無かったことが常識となりつつあります。

このコロナ禍で、私が感じたのは、その状況に応じた施策が大切であるということです。あらゆる年代、あらゆる立場にある方々に大きく影響を及ぼした新型コロナウイルスだからこそ、国や都道府県、あるいは各市町村の施策が重要であることを痛感しました。そして、その主導者や国民の代表となる立場となる人を選出するのが選挙です。私たちの生活をより良くしていくためには、選挙をないがしろにはしてはいけません。

しかしながら、日本の選挙では近年若者の投票率の低さが問題となっています。昨年10月に行われた第49回衆議院議員総選挙の10代～20代の投票率のデータでは、10代が43.2%、20代が36.5%、と有権者の半数以上が投票をしていないことが分かります。

では、なぜ若者の投票率が低いのでしょうか。

私は今回の衆議院議員総選挙では、政党と立候補者の公約を調べてから投票をしようと思いました。ですが、調べても自分の身近に感じるものが無いことや、公約が難しく書かれており、なかなか理解ができないものもありました。結局はよく耳にする政党名と公約が分かりやすかった立候補者に投票しました。私の周りの友人からも「だれに投票すればいいのか分からない」、「投票したって変わらない」等の声を耳にしました。実際に投票しても世の中が変わっていくことが身近に感じられないため投票率が下がるのではないかと私は思います。

若者が選挙をやって何がどう変わったのかを身近に感じるためには、当選者が掲げた公約を行っていきここまで出来て、世の中のここが変わりました。というような実績の報告をもっと広く行うべきではないかと思えます。ニュースや新聞で行われているのは知っていますが、10代から20代の若者が目にする機会は少ないと思えます。そのため、昨今導入されてきていますが、インターネットやSNSなどを活用した広報も重要なのではないかと思えます。自然と目にする機会が増えれば各政党や立候補者等が何をしているかの理解が増し、より身近に政治を感じることにつながるのではないかと思えます。

また、投票しやすいように、スマートフォンや電子端末による、ネットでの投票を実施するのも一つの方法だと思います。この方法は、現在でもアンケートなどの様々な調査でも実施されています。投票所の静かで緊張感漂う雰囲気やイメージは初めて投票する人に対しては不安感や緊張感を与えかねないかと思います。実施するためには二重投票やすり替わり投票など懸念される部分はあるかと思いますが、マイナンバーと暗証番号を活用したアカウント管理などを行えばそういった課題も解決でき、若者だけではなく全年齢層の投票率向上につながると思います。

若者の投票率が上がっていけば、若者向けの施策を公約に掲げる政党や立候補者が増えてくると思います。そうなれば、もっと政治を身近に感じるようになってくるでしょう。

新型コロナウイルス感染症の終息は依然として見えず、コロナ禍での生活はしばらく続くかと思われれます。いつもどおりの生活とはいかないまでも、より良い世の中で、より豊かな生活を送るために、積極的に選挙に参加し、投票することが明るい未来への第1歩だと私は考えます。